

第35回高知女子大学看護学会報告

テーマ『看護の社会的責任－看護職の役割拡大を考える－』

第35回高知女子大学看護学会が、平成21年7月4日（土）に松本女里学会長のもと、『看護の社会的責任－看護職の役割拡大を考える－』をテーマに、高知女子大学池キャンパスで開催された。参加者は166名であり、学会員をはじめ、看護学生である準会員、一般参加者を含め、多くの地域の看護職者の参加が得られ、盛会の内に開催することができた。

当日のプログラムは松本女里学会長の挨拶に始まり、高知県看護協会会長中村ささみ氏の来賓挨拶の後、兵庫県立大学看護学部教授 内布敦子氏による講演会「看護職は医療機器を救えるか」が開催された。午後は、7グループのワークショップが行われた後に、第35回高知女子大学看護学会総会が開催された。



学会長挨拶

松本女里学会長より、医療福祉看護が混沌とし、いろいろな問題が挙げられている現代において、何が大事なのか、看護とは何かを今一度考える必要があるのではないかと本学会テーマが検討された経緯が説明された。企画の意図を汲み取り、ご多忙の中講演会の講師を引き受けてくださった、内布敦子教授、ワークショップのコーディネーターや話題提供者の方々に感謝の意が述べられた。

また、学会の準備のために学会運営委員の皆様をはじめ、学内外の方々にご支援ご協力を賜ったことに対する感謝の意が述べられた。



来賓挨拶

来賓の高知県看護協会中村ささみ氏より、第35回高知女子大学看護学会開催されたことにお祝いと、高知県看護協会への支援に対する感謝の意が述べられた。保健医療福祉が大きく変化しようとしている中で、看護の社会的責任を考慮することが重要課題として挙げられると共に、今後の看護への期待が述べられた。



看護学部長挨拶

高知女子大学看護学部長野嶋佐由美先生より、参加者への感謝の意が述べられた後、社会的責任を果たすべく看護や看護教育の場である大学に科せられた役割や期待について述べられた。



講演会 「看護職は医療危機を救えるか」

兵庫県立大学看護学部教授 内布敦子先生に「看護職は医療危機を救えるか」というテーマにて講演をいただいた。参加者は重要性を感じつつも、どのように考えたらいいのか、どのように取り組んだらいいのかと、内布先生より何か考えていく糸口を得ることができないのではないかと、講演に真剣に聞き入って

いた。

講演に先立ち、座長の高知女子大学看護学部教授で、本学会の運営委員長でもある時長美希先生より、看護の役割拡大に関する社会の情勢について理解を深め、安全で安心な医療の提供のために、また、看護職の関与を患者さんの利益につなげるために、今後看護が果たしていかなければならない社会的責任について考えるという本学会の企画の意図、日本学術会議の看護学分科会の委員として健康問題における看護の役割拡大の問題に取り組んでおられる、内布敦子先生をお迎えすることとしたことが説明された。



内布先生の講演では、まず看護の役割拡大に関連する動き、看護師のキャリアアップと認定制度、看護業務を規定する法律が示され、日本学術会議提言をもとに医療提供における看護の役割の現状と問題点、2007年12月医政局通知「医師及び医療関係職と事務職員などの間等での役割分担の推進について」が示された（提示された資料；法律、公的な通達などによって、わが国ですでに認められている看護の裁量とその解釈）。さらに、アメリカやオーストラリア、カナダ、フランス、オランダ、ベルギー、韓国などのCNSやNPの裁量権が説明された後、「看護の役割拡大が安全と安心の医療を支える」という日本学術会議提言について述べられた（提示された資料；基礎教育および専門領域の教育訓練を受けた看護師の裁量の可能性—日本看護系学会協議会との議論を反映）。

役割拡大、裁量権拡大を進める際の重要なポイントとして、「国民の健康の維持・増進にとっての利益はなにか」「キュアとケアの藤堂の促進のために有益であるか」「看護の

アプローチだからこそ効果があがるのか」「看護師が役割をとることで医師の職務がよりよく全うできるのか」などが説明された。さらに、参加者がよりイメージしやすいように、実践例『造影剤を用いたCT検査における血管確保と注入』『外来化学療法室看護師による血管確保と治療管理』を用いて、医師と看護師それぞれの役割、医師と看護師の連携のあり方などが説明された（提示された資料；看護師などの役割・裁量拡大に関する考え方）。

現行法で可能な看護師が医師の判断を代替できる状況（事前指示ありの場合）、アメリカの場合の事前指示なしの場合で医師の判断を代替できる状況を対比しながら説明された後、看護師が役割拡大していく上で、どのような教育が必要かについても他国の例を提示しながら語られた。

質疑応答では、高知赤十字病院の救急外来師長さんより役割拡大をしていく上で、ガイドラインやプロトコルの重要性が述べられ、日本においてガイドラインやプロトコルを作成して行く取り組みがなされているかについて質問された。内布先生より、ガイドラインやプロトコルを看護協会や専門看護師協議会などから紹介することも必要であるが、一人ひとりのCNSや認定看護師などが紹介していくことのほうが現実的ではないかと回答をいただいた。また、高知女子大学看護学部池田光徳先生より、海外におけるNPやCNSの損害保険について質問された。この件についての詳細な資料を内布先生は持っていなかったので回答されなかったが、リスクを伴う職業であるので、保険制度が必要であることは語られ、現在の日本看護協会による保険制度の現状が紹介された。





II：管理職としての役割葛藤を越えて — 新任管理者のための交流会 —



ワークショップ

本学会では恒例になりつつあり、また参加者からも高評価を得ている参加型のワークショップを7つの領域で企画した。学会開催直前に日本で大きな問題になっていた新型インフルエンザという感染症対策を話題に取り上げたり、新人看護師・看護管理者など様々な経験者別の話題に注目したり、看護職のキャリアアップに着目したりと、参加者の関心を増幅させるような企画となった。多くの参加者の皆さまと議論し、活発な意見交換の場となった。



I：私が看護師を続けるわけ—看護の醍醐味—



コーディネーター：

久保田加代子（高知医療センター）

三浦かず子（高知学園短期大学）

話題提供者：

緒方紀美代（高知大学医学部附属病院）

野村 裕子

（老人保健施設リゾートヒルやわらぎ）

岡部 美枝

（近森リハビリテーション病院）

III：住民の健康で安全の暮らしを守る

地域・在宅看護の責任—感染症や虐待の
予防と拡大の阻止—

コーディネーター：

吉村利津子（高知医療センター）

大川 宣容（高知女子大学）

話題提供者：

井上 和代（高知赤十字病院）

黒岩 郁子（高知医療センター）

堀田 典子（芸西病院）



コーディネーター：

中島 信恵

(高知県中央西福祉保健所)

和田 昌子

(芸西村地域包括支援センター)

話題提供者：

上林 孝子

(大阪府池田保健所)

高橋 洋子

(土佐市地域包括支援センター)

IV：自律を目指す新人看護師のための交流会
ー専門職としての“責任”を培うー



コーディネーター：

瓜生 浩子 (高知女子大学)

話題提供者：

生田久美子 (高知大学医学部附属病院)

野瀬 智代 (高知医療センター)

谷本和香奈 (高知赤十字病院)

V：私たちが開くスペシャリストへの道



コーディネーター：

藤田 佐和 (高知女子大学)

話題提供者：

石浦 光世

(高知大学医学部附属病院・小児看護専門看護師)

福田 亜紀

(海辺の杜ホスピタル・精神看護専門看護師)

VI：社会、そして女性が求める医療・看護
ー女性のリプロダクティブ

ヘルスの視点からー



コーディネーター：

松本 鈴子 (高知女子大学)

西内 舞里 (高知女子大学大学院学生)

話題提供者：

公文 忍 (高知赤十字病院・助産師)

関 正節

(高知女子大学大学院学生・助産師)

VII：こどもの現代的な健康問題を支援する
ーアレルギー疾患を中心にー



コーディネーター：

池添 志乃 (高知女子大学)

話題提供者：

宮崎 恵美 (東洋英和女学院・養護教諭)

茶話会

前回からの継続企画である茶話会を、カフェテリアで開催した。卒業生及び修了生が回生を越えて、現在住所を置いている県別に集合し、近況報告した。全国各地に卒業生や修了生が活躍していることを知ることもでき、また自分の近くの先輩後輩と触れあう場となった。

